



さわやか



子どもが向上的に変わるとき！

終業式で、「2学期の反省」を述べた2年生の山口ひかりさんに、子ども達から惜しめない拍手に送られました。鳴り止まない拍手の中、自席に戻ってきた姿を目にし、目頭が熱くなりました。

ひかりさんは、暗記するため何日も練習してきたそうです。また、恥ずかしがり屋なので、かなりのプレッシャーを感じていたそうです。

大きく長く続いた子ども達の称賛の拍手は、そんなひかりさんを知っていたの事だったのでしょうか？言えることは、ひかりさんの一生懸命な姿に感動したのだと思います。飾りのない本音で書かれた内容が、子ども達の心に響いたからだだと思います。

簡単に言うと、ひかりさんが一生懸命に発表し、その姿に心を打たれたからでしょう。「一生懸命」「全力」「本気」な姿は、とても素敵です。



二学期の反省を堂々と「はっぴょう」する。

①子どもが変わるとき、それはどんなときでしょう？

②子どもを変えたいとき、教師は、どうすればいいのでしょうか？

①について言えば、ア：心が動く感動を受けたとき イ：気づきがあったとき ウ：考え方が変わったときでしょう。

②については、子どもに「活動」させて、ア～ウの状況をつくることで、そのために、身に付けたい資質や能力に係わった活動を工夫することです。

ひかりさんの例で考えると、「ア」の「心が動く感動を受けたとき」に当てはまると思います。大きな拍手で評価をいただいたひかりさんは、その感動が自信となって大きな成長に導くことでしょう。

ここで教師として大切なのが、その行為・行動に意味づけをして子どもに返してあげることです。それは一般的に「承認する」といいます。

ひかりさんに、頑張りの背景や立派に発表できたこと、友だちの大きな拍手の意味などを伝える（承認する）ことによって、本人は自信を高め、大きく変わるきっかけをつかむことでしょう。

SSTは、心理教育

本校では、対人関係のスキルを育成する手立てとして「SST」を位置づけています。このSSTは、行動の仕方を教えるため、思考と感情を重視しています。

行動して感じたこと、考えたことを、振り返りながら明確にし、よりよい行動について意味づけ・価値付けを行いながら、自己の変容へと高めていくのがSSTです。



子どもが成長し、伸びる教育課程・教育計画をつくる

主体的で対話的で深い学びを実現するために、下記のこと留意したい。

- 学習集団、生活集団の育成 → 規律と礼儀
- 基礎的基本的な内容の定着 → TT指導と放課後学習会、家庭学習
- 効果的で実効ある指導方法 → 考える場（比較・検討）と振り返りの場。
→ 子どもが活動することで、子どもが変容する計画



質の高い「体験」を工夫し、そこで「感じた」こと、「考えた」こと、「気づいた」ことを振り返らせる活動を通して、学びを「経験」に高めましょう。子どもは、伸びます。変わります。